

## 商工会議所 L O B O ( 早期景気観測 )

- - 平成 1 4 年 1 0 月調査結果 - -

( 平成 1 4 年 1 0 月 3 1 日 )

調査期間：平成 1 4 年 1 0 月 1 8 日 ~ 2 4 日

調査対象：全国の 4 0 1 商工会議所が 2 6 0 4 業種組合等にヒアリング  
( 内訳 ) 建設業 3 8 6 製造業 6 3 7 卸売業 2 3 1  
小売業 7 4 6 サービス業 6 0 4

調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況 ( D I 値を集計 )  
及び、業界として当面する問題等

### D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = ( 増加・好転などの回答割合 ) - ( 減少・悪化などの回答割合 )  
業況・採算 : ( 好転 ) - ( 悪化 )      売上 : ( 増加 ) - ( 減少 )

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 4 4、7 8 3 6  
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ( <http://www.jcci.or.jp> )でもご覧になれます。

## 【平成14年10月調査結果のポイント】

### 業況は2カ月連続で悪化 DI値は再びマイナス50台に

10月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（48.1）よりマイナス幅が4.2ポイント拡大して52.3となった。DI値は、4月以降8月まで一進一退を繰り返しながらも縮小傾向を示してきたが、前月、今月と2カ月連続でマイナス幅が拡大し、5カ月振りに再びマイナス50台となった。

業種別の業況DIを見ると、全業種でマイナス幅が拡大し、特に、建設で6.9ポイント、卸売で6.5ポイントの大幅な悪化となった。DI値の水準は依然として低く、消費の低迷や競争激化、商品単価の下落、先行き不透明感を訴える声が多数寄せられている。

【建設業】では、「公共工事の発注が増加したので上期より好転するのではないか」（一般工事）といった声も一部にあるが、「公共事業の減少が受注減少につながっている」（一般工事）、「公共工事の絶対量の不足、採算の悪化と厳しい状況」（一般工事）といった声が多い。また、「官民とも発注量の減少と収益率の低下が続いており、厳しい状況」（一般工事）、「企業の設備投資が極端に少なくなっており、小口工事が多少増えても全体の工事量は少ない」（電気工事）と、官公需だけでなく民需の低迷を訴える声も寄せられている。全体的に「競争激化、単価下落により、売上、採算とも悪化している」（一般工事）と競争激化と単価下落を訴える声が多い。

【製造業】では、「これまで若干増産で来たが、下期は減産基調」（耐火物製造）、「仕事量は増えているが、先行きの見通しは不透明そのもの」（自動車・附属品）といった、これまで回復基調だった業種でも減速傾向との声が寄せられている。また、「受注は増加しているが、単価が安く利益になりにくい」（家具製造）、「中国・東南アジア製品の単価にはとても太刀打ちできない」と単価下落を訴える声が多い。また、「好調であった東アジア、特に中国向けの受注にかげりが見える」（繊維機械製造）といった声や、「材料高の製品安で採算悪化」（輸送用機器）、「紙の値上がり経営を圧迫」（印刷）といった仕入コストの上昇を訴える声が寄せられている。

【卸売業】では、「衣服、日用品とも売上減少し、従業員は高齢で過剰」（各種商品卸）、「年間売上でのウェイトが大きいシーズンを迎えるが、一部商品に動きはあるものの、需要低迷し厳しい」（繊維品卸）と、消費の低迷を訴える声が寄せられている。また、「単価が安く、数量でカバーしている」（農畜産水産物卸）、「低価格商品の売上は増加」（食用・飲料卸売）、「少量配達が増え忙しくても売上は減少」（建築材料卸）といった、商品単価の低迷を訴える声が多い。

【小売業】では、「連休が多く好天が続いたことにより売上増加」（各種商品小売）との声もあるが、「採算ベースにはのっているが、商品価格と客単価下落で、客数は前年比横ばいなのに売上高は低下」（百貨店）、「イベント開催日の来街者数は増加するが、売上に結び付くのは飲食等、一部の業種に限られる」（商店街）といった、商品単価、客単価とも低迷しているとの声が多く寄せられている。また、「必要なもの以外は買わないという消費行動が定着し、高額品の売上減少が顕著」（商店街）との声が寄せられる一方、「衣料を中心に安価な商品でも売れなくなる物余り現象が起こっている」（百貨店）とのコメントも寄せられ、価格を問わず消費の低迷傾向が強まっているとの声があがっている。

【サービス業】では、「秋の観光シーズンで11月前半まで中堅ホテル・旅館でも満員の日が多い」(旅館)「韓国、台湾などからの外国人観光客が順調に増加しており、今後に期待」(食堂、レストラン)との声もあるが、「需要の低迷とインターネット予約の増加により価格競争激化」(旅館)、「低価格店の出店により一般店の売上減少」(理容)「同業者間の価格競争が激しく先行き不安」(自動車整備)「飲食店では売上半減も珍しくなく、従業員も雇えない店が多くなった」(一般飲食店)など、需要低迷、競争激化によるサービス単価の下落と、先行き不透明感を訴える声が多く寄せられている。

売上面では、前月水準と比較して、小売を除く4業種でD I値のマイナス幅が拡大したことから、全産業合計の売上D Iは前月水準よりマイナス幅が4.1ポイント拡大して46.0となり、2カ月連続でマイナス幅が拡大した。

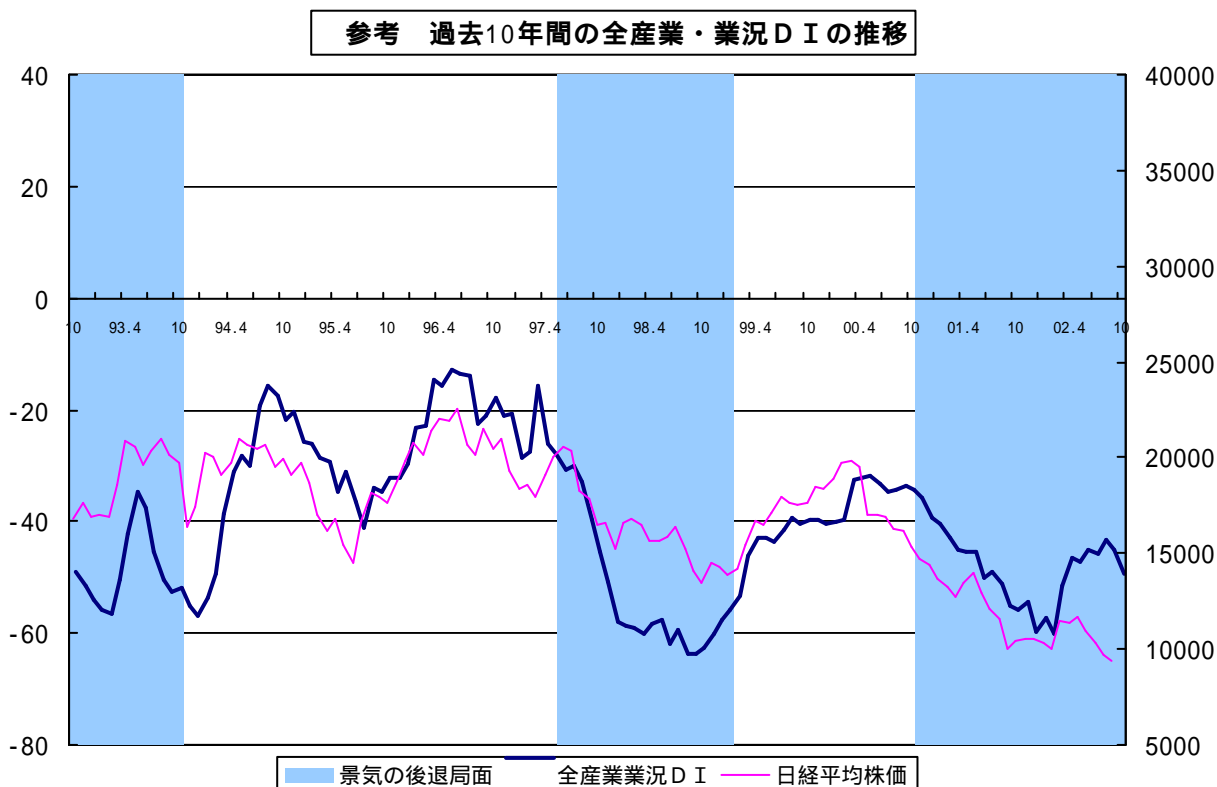
採算面でも、小売を除く4業種でマイナス幅が拡大し、全産業合計の採算D Iは1.1ポイントマイナス幅が拡大して45.6と、業況および売上D Iとともに、2カ月連続でマイナス幅が拡大した。

向こう3カ月(11月～1月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況D I(今月比ベース)が43.1と、昨年同時期の先行き見通し(52.2)と比べて上向いているものの、前月水準(37.9)よりもマイナス幅が4.2ポイント拡大している。

景気に関する声、当面する問題としては、公共事業の減少や消費不振、商品単価の下落、仕入れコストの上昇に関するコメントが目立っている。

D I 値

株価(円)



【業況についての判断】

10月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（48.1）よりマイナス幅が4.2ポイント拡大して52.3となった。DI値は、4月以降8月まで一進一退を繰り返しながらも縮小傾向を示してきたが、前月、今月と2カ月連続でマイナス幅が拡大し、5カ月振りにマイナス50台となった。

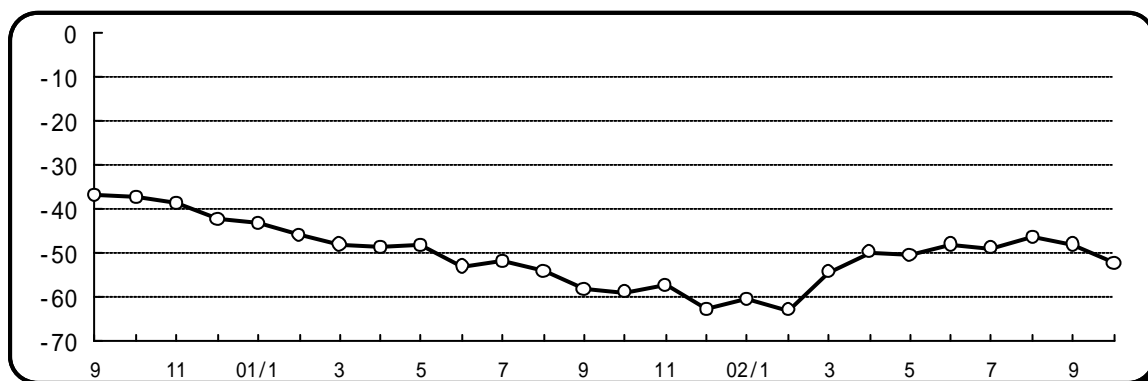
向こう3カ月（11月～1月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が43.1と、昨年同時期の先行き見通し（52.2）と比べて上向いているものの、前月水準（37.9）よりもマイナス幅が4.2ポイント拡大している。

業況DI（前年同月比）の推移

	14年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11～1月
全産業	50.4	48.1	48.9	46.4	48.1	52.3	43.1 (52.2)
建設	66.7	61.6	57.1	55.7	56.8	63.7	60.2 (62.8)
製造	53.8	48.5	47.6	44.8	49.2	53.7	40.0 (55.2)
卸売	58.1	52.1	48.7	46.6	50.6	57.1	44.2 (58.2)
小売	42.7	41.1	49.1	45.0	42.3	45.8	38.5 (49.3)
サービス	41.8	45.8	44.5	43.4	47.2	49.4	40.6 (42.5)

「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しDI  
( )内は昨年10月の先行き見通しDI<以下同じ>

業況DI(全産業・前年同月比)の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

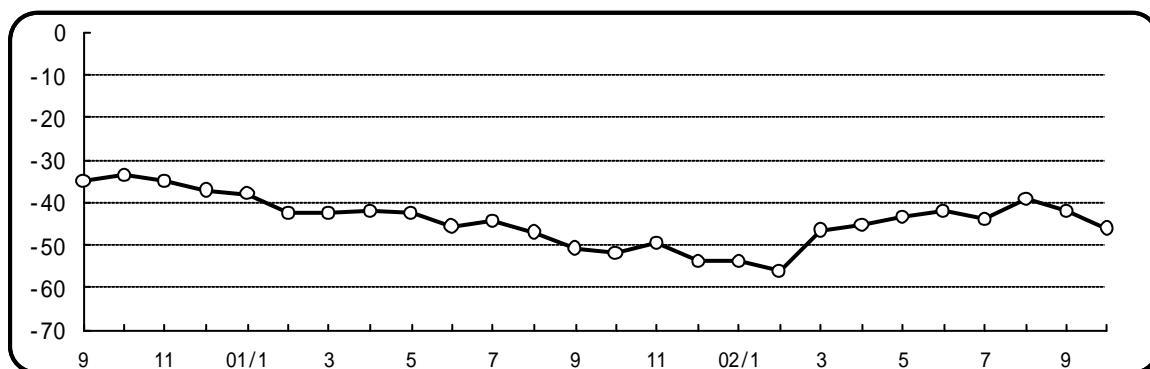
売上面では、前月水準と比較して、小売を除く4業種でマイナス幅が拡大したことから、全産業合計の売上DIは前月水準よりマイナス幅が4.1ポイント拡大して46.0となり、2カ月連続でマイナス幅が拡大した。

向こう3カ月(11月～1月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上DI(今月比ベース)が33.1と、昨年同時期の先行き見通し(43.5)に比べて上向いている。

売上（受注・出荷）DI（前年同月比）の推移

	14年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11～1月
全産業	43.2	42.0	44.0	39.1	41.9	46.0	33.1 (43.5)
建設	60.7	56.5	48.7	45.7	47.0	56.9	51.7 (59.1)
製造	47.7	40.0	41.6	37.6	42.8	44.5	33.4 (47.3)
卸売	45.6	45.6	45.5	39.8	48.1	55.8	31.3 (41.8)
小売	37.1	38.7	45.3	39.4	40.2	39.8	25.4 (38.0)
サービス	32.5	37.0	41.3	35.7	37.3	44.4	30.9 (35.4)

《売上（受注・出荷）DI（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

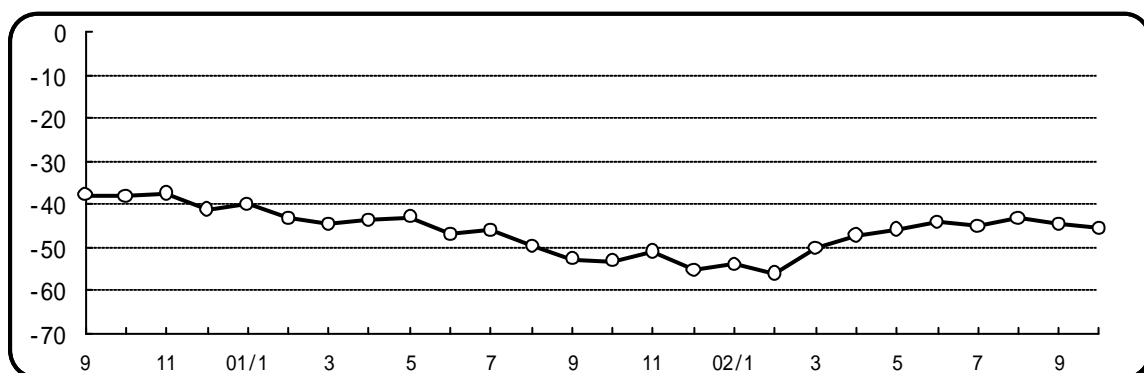
採算面でも、小売を除く4業種でマイナス幅が拡大し、全産業合計の採算D Iは1.1ポイントマイナス幅が拡大して45.6と、業況および売上D Iとともに、2カ月連続でマイナス幅が拡大した。

向こう3カ月(11月～1月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が34.5で、昨年同時期の先行き見通し(44.6)と比べて上向いている。

採算D I (前年同月比)の推移

	14年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11～1月
全産業	45.7	43.9	45.2	43.0	44.5	45.6	34.5 (44.6)
建設	62.1	60.5	56.6	59.6	56.8	60.5	55.4 (59.8)
製造	51.6	44.8	46.1	44.9	45.9	51.4	36.4 (48.6)
卸売	47.5	42.0	43.1	40.4	48.1	50.3	30.1 (44.4)
小売	36.3	37.0	42.0	36.3	35.5	29.5	23.7 (37.7)
サービス	38.9	41.2	41.3	38.7	44.3	47.6	33.9 (37.9)

《採算D I (全産業・前年同月比)の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比) の推移

	14年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11~1月
全産業	36.3	34.5	33.8	32.8	34.7	35.9	31.8 ( 35.3)
建設	46.7	44.8	44.9	44.5	48.5	45.7	47.6 ( 41.1)
製造	43.3	41.6	41.4	37.7	38.2	42.3	33.5 ( 43.0)
卸売	33.3	30.7	29.6	24.8	26.7	29.9	27.9 ( 36.4)
小売	25.3	24.4	24.9	25.3	28.9	26.8	25.5 ( 28.4)
サービス	33.4	30.7	26.8	29.4	30.3	33.7	28.9 ( 30.2)

D I = ( 好転の回答割合 ) - ( 悪化の回答割合 )

【前年同月比D I】建設、小売を除く3業種で悪化超感が強まったことから、全産業合計のD Iも2カ月連続で悪化超感が若干強まる。

【先行き見通しD I】建設で、昨年同時期に比べ悪化超感若干強まるが、他の4業種は悪化超感が弱まり、全産業でも悪化超感弱まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比) の推移

	14年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11~1月
全産業	1.0	0.7	0.1	0.4	0.7	1.7	3.4 ( 1.1)
建設	1.1	1.8	0.0	1.8	3.4	6.4	1.9 ( 0.4)
製造	5.9	4.9	7.3	5.9	8.6	12.3	12.3 ( 6.9)
卸売	8.2	4.8	1.9	8.8	5.7	9.8	3.7 (3.3)
小売	8.4	8.3	8.4	3.1	9.1	1.8	0.2 (4.6)
サービス	3.5	5.2	3.0	3.8	3.3	4.8	4.6 ( 3.8)

D I = ( 下落の回答割合 ) - ( 上昇の回答割合 )

【前年同月比D I】製造、小売、サービスで下落超感が弱まり、全産業では2カ月振りに上昇超過となった。

【先行き見通しD I】建設、卸売を除く3業種で、昨年同時期に比べ下落超感弱まり、全産業でも下落超感弱まる見通し。

従業員 D I (前年同月比) の推移

	14年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11~1月
全産業	17.2	15.6	15.0	14.9	14.2	16.4	14.9 ( 16.3)
建設	36.8	36.7	32.0	33.8	33.1	34.2	31.6 ( 30.0)
製造	23.2	21.8	22.8	21.8	20.5	25.6	19.1 ( 23.9)
卸売	20.6	16.0	14.9	16.8	16.3	11.0	12.1 ( 17.2)
小売	6.4	3.7	4.3	4.9	3.8	7.0	8.0 ( 8.3)
サービス	8.9	8.9	7.5	5.8	6.7	8.5	8.4 ( 7.3)

$$D I = (\text{不足の回答割合}) - (\text{過剰の回答割合})$$

【前年同月比 D I】卸売を除く 4 業種で過剰超感が強まり、全産業でも過剰超感が強まる。

【先行き見通し D I】建設、サービスを除く 3 業種で、昨年同時期に比べ過剰超感が弱まり、全産業でも弱まる見通し。



## 【平成14年10月の景気キーワード】

### 先行き不透明感

今月も、業種を問わず景気の先行き不透明感を指摘する声が多く寄せられている。建設業からは、「公共事業の受注も先が見えており、ますます先行きが不透明」(新井・一般工事)、「補正予算も期待できず、先行き不安感が広がっている」(帯広・一般工事) 製造業からは、「若干の上向き傾向は感じるものの、コストダウンを迫られ先行き不安」(高崎・金属素形材製品)、「現状はなんとかやっているが、長期的な受注見込みが立たない」(各務原・金属加工機械)、「米国経済が失速の為、先行き要注意」(茅野・電子部品製造) などの声が寄せられている。また、卸売業・小売業・サービス業からは、「今後、年末のピーク期を迎え期待もあるが、消費動向に好転の兆しはなく、前年並の売上維持は困難」(札幌・食料・飲料卸売) との声や、「先行きは、暗いニュース(株価、冬のボーナス、社会保険等の負担増、政策の遅れなど)の影響を受けて、厳しい商戦になると予想される。」(茨木・百貨店)「人員削減、給与カット等、現在の景気状況と先行きに対する不安感から個人の財布の紐は固い」(倉敷・食堂、レストラン)といった、景気の先行きへの消費者の不安感の影響を懸念する声が多い。また、「採算分岐点を下げる工夫を常に考えて実行するが、結果としてデフレスパイラルの流れに乗る事となり、更に厳しくなる」(富士・旅館)といった、デフレ傾向に歯止めがかからないことへの不安を訴える声も寄せられている。

### 競争激化・単価下落

全産業で、需要の低迷、同業者、海外との競争激化などにより、単価の下落傾向が止まらないとの声が増えている。建設からは「仕事量が少ないため、競争が激しく民間工事は全てと言っていいほど赤字工事」(上越・電気工事)「価格低下、採算悪化しており、従業員を減らしたいが、他に就職先も無い」(姫路・建築工事) 製造からは「海外生産国の生産増加により、国内の販売価格が抑制され、適正価格に至らない」(燕・金物類製造)「自動車部品メーカーからの受注は増加傾向にあるが、単価上がり探算面が厳しい」(豊橋・自動車、附属品)といった声が寄せられている。卸売、小売からは「市場全体が安売り傾向と中国・東南アジア方面の輸入商品に押され、大変厳しい」(檀原・衣服、日用品卸)「軽自動車、小排気量の普通車を中心に動きが出てきているが、価格帯が低く採算に貢献しない」(釧路・自動車小売)「冬物衣料に期待するも、カジュアル化傾向により単価ダウンは必至」(堺・百貨店)といった声があがっている。また、サービスからも「冬場に向けて整備・修理の繁忙期に期待するが、競争激化・単価安は依然続いている」(帯広・自動車整備)「結婚式シーズンで着付け客が増加するも、業者間競争激しく花嫁着付けも料金下げざるを得ない状況」(美濃加茂・美容)といった、サービス単価の下落傾向を訴える声も寄せられている。

### 【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
14年 8月	先行き不透明感	猛暑・天候不順	食品表示問題
9月	先行き不透明感	「景気回復感」なし	資金繰り悪化
10月	先行き不透明感	競争激化・単価下落	

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関しての自由回答をまとめたもの。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況D I、売上D Iは2カ月連続でマイナス幅が拡大。採算D Iも2カ月振りにマイナス幅が拡大し、業況、採算D Iが4カ月振りにマイナス60台となった。「公共工事の発注が増加したので上期より好転するのではないか」(一般工事)といった声も一部にあるが、「公共事業の減少が受注減少につながっている」(一般工事)、「公共工事の絶対量の不足、採算の悪化と厳しい状況」(一般工事)といった声が多い。また、「官民とも発注量の減少と収益率の低下が続いており、厳しい状況」(一般工事)、「企業の設備投資が極端に少なくなっており、小口工事が多少増えても全体の工事量は少ない」(電気工事)と、官公需だけでなく民需の低迷を訴える声も寄せられている。全体的に「競争激化、単価下落により、売上、採算とも悪化している」(一般工事)と競争激化と単価下落を訴える声が多い。
製 造	業況、売上、採算D Iとも、2カ月連続でマイナス幅が拡大し、業況、採算D Iは5カ月振りにマイナス50台となった。「これまで若干増産で来たが、下期は減産基調」(耐火物製造)、「仕事量は増えているが、先行きの見通しは不透明そのもの」(自動車・附属品)といった、これまで回復基調だった業種でも減速傾向との声が寄せられている。また、「受注は増加しているが、単価が安く利益になりにくい」(家具製造)、「中国・東南アジア製品の単価にはとても太刀打ちできない」と単価下落を訴える声が多い。また、「好調であった東アジア、特に中国向けの受注にかげりが見える」(繊維機械製造)といった声や、「材料高の製品安で採算悪化」(輸送用機器)、「紙の値上がり経営を圧迫」(印刷)といった仕入コストの上昇を訴える声が寄せられている。
卸 売	業況、売上、採算D Iとも、2カ月連続でマイナス幅が拡大した。「衣服、日用品とも売上減少し、従業員は高齢で過剰」(各種商品卸)、「年間売上でのウェイトが大きいシーズンを迎えるが、一部商品に動きはあるものの、需要低迷し厳しい」(繊維品卸)と、消費の低迷を訴える声が寄せられている。また、「単価が安く、数量でカバーしている」(農畜産水産物卸)、「低価格商品の売上は増加」(食用・飲料卸売)、「少量配達が増え忙しくても売上は減少」(建築材料卸)といった、商品単価の低迷を訴える声が多い。
小 売	業況D Iは3カ月振りにマイナス幅が拡大、売上D Iは2カ月振りにマイナス幅が縮小、採算D Iは3カ月連続でマイナス幅が縮小した。「連休が多く好天が続いたことにより売上増加」(各種商品小売)との声もあるが、「採算ベースにはのっているが、商品価格と客単価下落で、客数は前年比横ばいなのに売上高は低下」(百貨店)、「イベント開催日の来街者数は増加するが、売上に結び付くのは飲食等、一部の業種に限られる」(商店街)といった、商品単価、客単価とも低迷しているとの声が多く寄せられている。また、「必要なもの以外は買わないという消費行動が定着し、高額品の売上減少が顕著」(商店街)との声が寄せられる一方、「衣料を中心に安価な商品でも売れなくなる物余り現象が起こっている」(百貨店)とのコメントも寄せられ、価格を問わず消費の低迷傾向が強まっているとの声があがっている。
サービス	業況、売上、採算D Iとも、2カ月連続でマイナス幅が拡大した。「秋の観光シーズンで11月前半まで中堅ホテル・旅館でも満員の日が多い」(旅館)、「韓国、台湾などからの外国人観光客が順調に増加しており、今後に期待」(食堂、レストラン)との声もあるが、「需要の低迷とインターネット予約の増加により価格競争激化」(旅館)、「低価格店の出店により一般店の売上減少」(理容)、「同業者間の価格競争が激しく先行き不安」(自動車整備)、「飲食店では売上半減も珍しくなく、従業員も雇えない店が多くなった」(一般飲食店)など、需要低迷、競争激化によるサービス単価の下落と、先行き不透明感を訴える声が多く寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I (前年同月比ベース)をみると、全ブロックでマイナス幅が拡大し、全産業合計では2カ月連続でマイナス幅が拡大した。

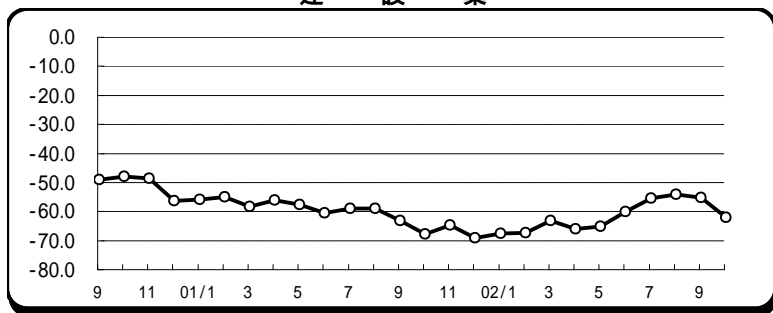
ブロック別の向こう3カ月(11月~1月)の業況の先行き見通しは、全ブロック合計で、引き続きマイナス水準が続く。しかしながら、北海道を除く8ブロックで昨年同時期の先行き見通しと比べマイナス幅が縮小しており、上向いている。

ブロック別・全産業業況D I (前年同月比)の推移

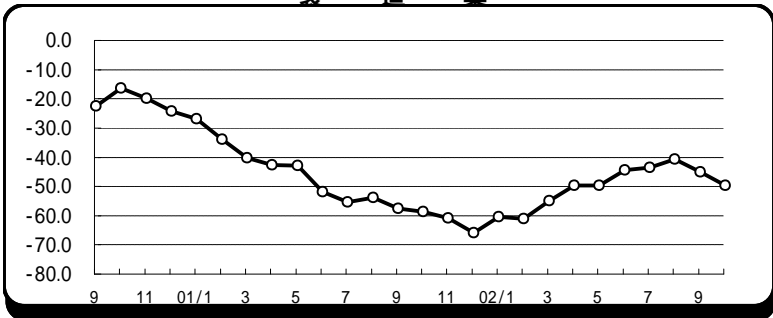
	14年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11~1月
全 国	50.4	48.1	48.9	46.4	48.1	52.3	43.1 ( 52.2)
北海道	43.3	40.8	43.3	45.4	40.3	41.3	43.7 ( 40.9)
東 北	55.3	51.8	55.3	50.3	51.5	53.2	51.3 ( 55.6)
北陸信越	52.8	46.0	40.1	38.5	44.3	47.0	44.3 ( 53.2)
関 東	44.9	50.1	43.5	42.6	46.1	54.7	40.1 ( 44.7)
東 海	43.7	43.1	52.8	43.2	49.7	53.0	42.2 ( 54.0)
近 畿	61.9	53.0	52.9	55.1	52.6	58.0	47.0 ( 67.9)
中 国	57.0	51.4	55.2	44.4	48.1	49.3	40.8 ( 57.5)
四 国	57.3	52.6	58.7	56.3	55.4	60.6	45.0 ( 50.0)
九 州	42.6	40.0	48.9	46.2	45.7	46.5	37.2 ( 47.8)

# 業況D I（前年同月比）の推移（全国）

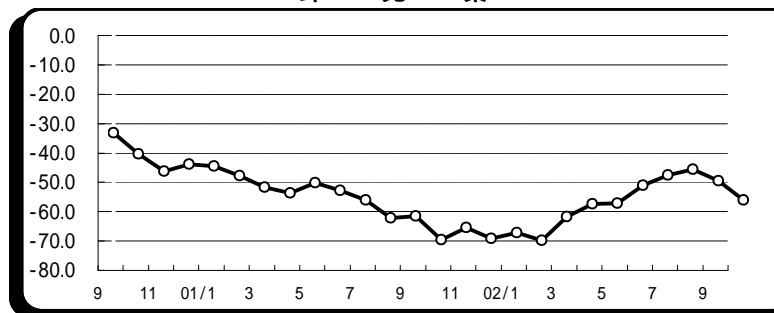
## 建設業



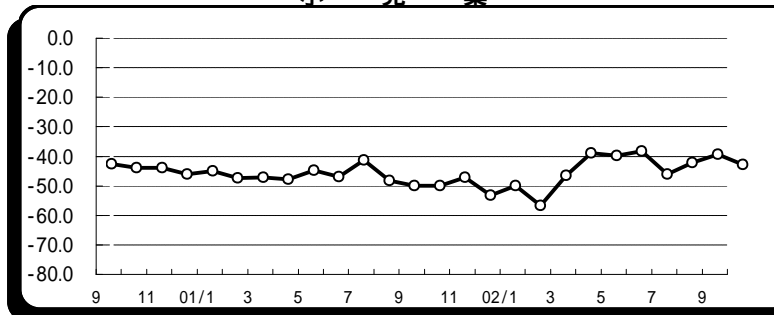
## 製造業



## 卸売業



## 小売業



## サービス業

